

Course number		G-LAS00 80002 LJ20					
Course title (and course title in English)	研究倫理・研究公正（人社系）			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Institute for Liberal Arts and Sciences Program-Specific Professor,TAKAHASHI YOSHINORI Graduate School of Law Professor,HATTORI TAKAHIRO Graduate School of Management Professor,MATSUI HIROYUKI		
	Research Ethics and Integrity(Humanities and Social Sciences)						
Group	Common Graduate Courses		Field(Classification)		Social Responsibility and Profitability		
Language of instruction	Japanese		Old group		Number of credits	0.5	
Hours	7.5	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters	2024・Intensive, First semester	
Days and periods	Intensive to be notified separately		Target year	Graduate students	Eligible students	For liberal arts students	
[Overview and purpose of the course]							
<p>研究をこれから始める大学院生に責任ある行動をする研究者として身につけておくべき心構えを学ばせる。研究者として従うべき規範に沿っていかに研究を進めるか、また研究成果の適切な発表方法など、研究倫理・研究公正を教示する。特に、科学研究における不正行為がいかに健全な科学の発展の妨げになるかを例示しつつ、データの正しい取扱い方と適正な研究成果の発表の仕方等を講義する。さらに、研究費の適切な使用と知的財産や利益相反について学ぶ。講義に加えて、グループワークとして、与えられた課題についてディスカッションを行う。</p>							
[Course objectives]							
<p>第1講～第4講を通じて、研究者としての責任ある行動とは何かを修得する。科学研究における不正行為の事例学習を通じて、誠実な研究活動を遂行する研究者の心得を身につける。最後に研究倫理・研究公正についてのe-ラーニングコースの受講で理解度を確認する。</p>							
[Course schedule and contents)]							
<p>第1講 科学研究における心構え - 研究者の責任ある行動とは -</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例紹介（ビデオ：分野共通4件） 2. 研究者の責任ある行動とは（社会の中の研究者） 3. 不正の可能性と対応 4. 研究活動における研究計画 5. 研究活動におけるデータの収集と管理 6. データマネジメント（データの保存・公開・機密） 7. 科学上の間違いと手抜き行為の戒め 8. 誠実な研究活動中の間違いとの区別 <p>第2講 研究成果を発表する際の研究倫理公正</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論文発表の方法とプロセス 2. 科学研究における不正行為（典型的な不正） 3. その他の逸脱行為（好ましくない研究行為） 4. 適切な発表方法 <p>第3講 知的財産と研究費の適正使用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法との関わり - 盗用と著作権 2. 研究資金と契約 3. 利益相反（利害の衝突と回避） 							
<div style="text-align: right;">Continue to 研究倫理・研究公正（人社系）(2)</div>							

研究倫理・研究公正（人社系）(2)

4. 公的研究費の適切な取扱い

第4講 グループワーク

1. 例示された課題についてグループ・ディスカッション
2. 日本学術振興会「研究倫理ラーニングコース」の受講と修了証書の提出

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

第1～4講の全出席と参加の状況と、学術振興会e-learningの修了証の提出をもって合格を判定する。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

（References, etc.）

真島俊造・奥田太郎・河野哲也編『人文・社会科学のための研究倫理ガイドブック』慶応義塾大学出版会、2015年、ISBN978-4-7664-2255-9。

日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編『科学の健全な発展のために - 誠実な科学者の心得 - 』丸善出版、2015年、ISBN978-4621089149。学術振興会のHP（<https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/rinri.pdf>）より、テキスト版をダウンロード可能。

米国科学アカデミー編、池内了訳『科学者をめざす君たちへ - 研究者の責任ある行動とは 第3版』化学同人、2010年、ISBN978-4759814286。

[Study outside of class (preparation and review)]

日本学術振興会「研究倫理ラーニングコース」の受講

[Other information (office hours, etc.)]

履修者は、講義に必ず出席した上で、グループワーク ～ のうちいずれか一つに参加する。グループワーク実施に際しては適宜人数調整を行うため、自分が希望したのとは異なる日・時限に参加するよう指定されることがあり得る。自分が参加する日・時限が確定するまでは、他の候補日・時限についても予定を空けておくよう留意されたい。